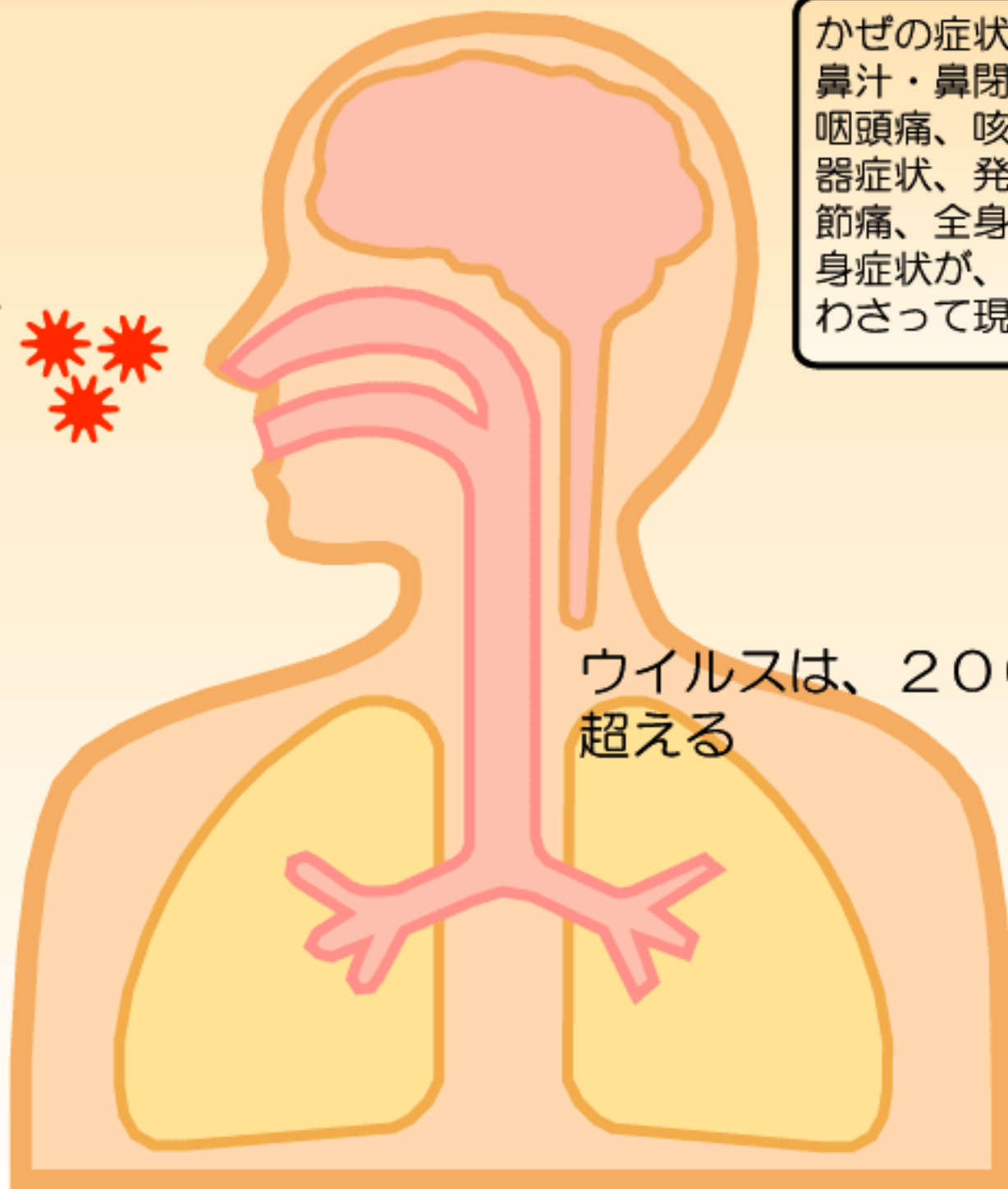


「かぜ」は単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群

かぜ
ウィルス



ウィルスは、200種類を超える

かぜの症状は、くしゃみ、
鼻汁・鼻閉（鼻づまり）、
咽頭痛、咳、痰等の呼吸
器症状、発熱、頭痛、関
節痛、全身倦怠感等の全
身症状が、様々に組み合
わさって現れる。





かぜとよく似た症状が現れる疾患

1. 急激な発熱を伴う場合
2. 症状が4日以上続くとき
3. 悪化するようなとき



喘息、アレルギー性鼻炎、リウマチ熱、関節リウマチ、肺炎、肺結核、髄膜炎、急性肝炎、尿路感染症等多数ある。

俗に「**お腹にくるかぜ**」などと呼ばれるが、これらはかぜの症状でなく、ウイルスが消化器に感染したことによるもの（ウイルス性胃腸炎）である。

インフルエンザ（流行性感冒）は、かぜと同様、ウイルスの呼吸器感染によるものであるが、感染力が強く、また、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。

	「かぜ」	「インフルエンザ」
原因	ライノウイルス コロナウイルス アデノウイルス	インフルエンザウイルス
感染経路	空気感染	接触感染
発症と進行	気がついたら発症し 徐々に進行	突然発症し急激に進行
初期症状	くしゃみ、鼻水、 のどの乾燥	悪寒、頭痛
主な症状	鼻水、鼻づまり、咳、 のどの痛み	発熱、関節痛、筋肉痛、 耳の痛み
発熱	平熱～39度	約39～40度
食欲	それほど変わらない	ない
ワクチン	ない	ある
合併症	まれにある	肺炎、脳症、 脳炎など



発熱を鎮め、痛みを和らげる成分

解熱鎮痛薬

解熱鎮痛薬を参考に。

アスピリン、サリチルアミド、エテンザミド、アセトアミノフェン
イブプロフェン、イソプロピルアンチピリン

サリチルアミド、エテンザミドについては、15歳未満の小児で水痘（水疱瘡）又はインフルエンザにかかっているときは使用を避ける必要がある。



生薬成分

ジリュウ（地竜）、ショウキョウ（生姜）、ケイヒ（桂皮）

解熱作用

ゴオウ（牛黄）、カッコン（葛根）、サイコ（柴胡）、ポウフウ（防風）
ショウマ（升麻）

鎮痛作用

センキュウ（川芎）、コウブシ（香附子）

くしゃみや鼻汁を抑える成分

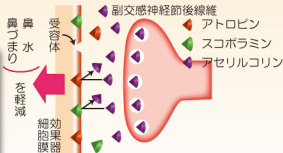
抗ヒスタミン成分

マレイン酸クロルフェニラミン、マレイン酸カルピノキサミン、メキタジン、フマル酸クレマスチン、塩酸ジフェンヒドラミン等

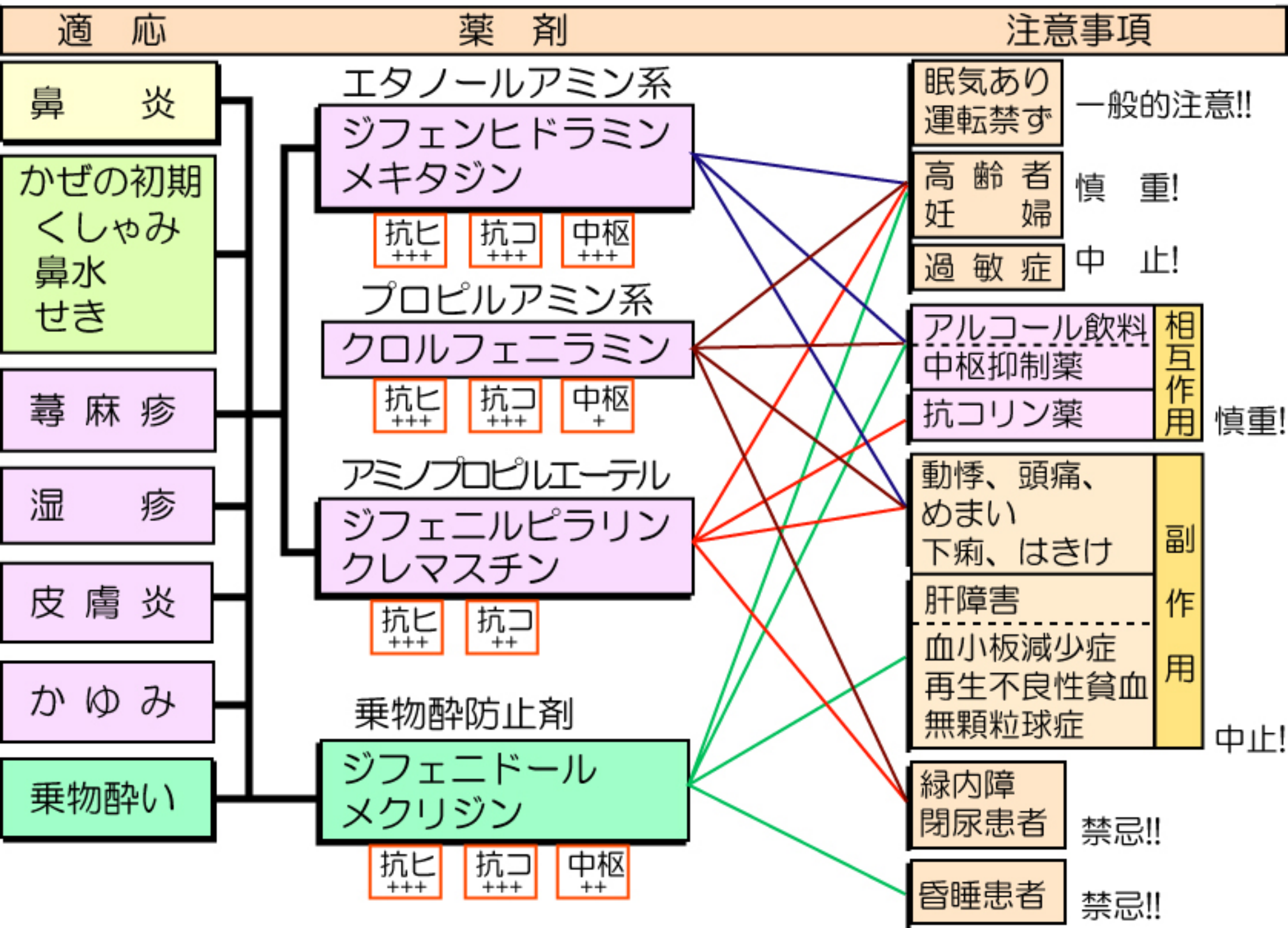


抗コリン成分

ペラドンナ総アルカロイド
ヨウ化イソプロパミド



副交感神経を遮断（抗コリン作用）し
鼻水・鼻づまりを軽減します。



気管支を広げる成分

アドレナリン作動成分

塩酸メチルエフェドリン、メチルエフェドリンサッカリン塩、塩酸トリメトキノール、塩酸メトキシフェナミン、麻黄等

心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。

自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用

シブロフィリン等のキサンチン系成分

甲状腺機能障害又はてんかんの診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがあり

痰の切れを良くする成分

気道粘膜からの分泌を促進する作用

グアイフェネシン、グアヤコールスルホン酸カリウム、クレゾールスルホン酸カリウム、塩酸プロムヘキシン等

中枢神経系に作用して咳を抑える成分

延髄の咳嗽中枢に作用するもの

○麻薬性鎮咳薬

リン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデイン半夏など

○非麻薬性鎮咳薬

ノスカピン、塩酸ノスカピン臭化水素酸デキストロメトルファン、ヒベンズ酸チペピジン、リン酸ジメモルファン、塩酸クロペラスチン、フェンシソ酸クロペラスチン等

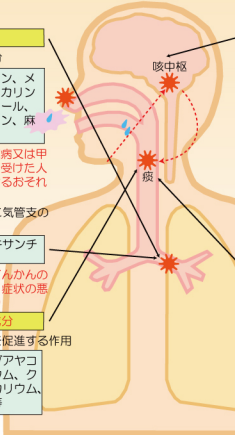
胃腸の運動を低下させる作用があり、便秘を起こすことがある。

炎症を和らげる成分

気道の炎症を和らげることを目的

塩化リゾチーム、トラネキサム酸、グリチルリチン酸二カリウム、カンゾウ等

ショック（アナフィラキシー）や皮膚粘膜眼症候群、中毒性皮膚壊死症のような重篤な副作用を生じることがあり、また、鶏卵アレルギーの既往歴がある人では使用を避ける必要



塩化リゾチーム

痰の粘りけを弱めるとともに、気道粘膜の線毛運動を促進させて痰の排出を容易にする作用

塩化リゾチームは、鶏卵の卵白から抽出した蛋白質であり、**鶏卵アレルギー**がある人が摂取すると、**ショック(アナフィラキシー)**、**皮膚粘膜眼症候群**、**中毒性表皮壊死症**のような重篤なアレルギー性の副作用を起こすおそれがある。



セミアルカリプロティナーゼ、プロメライン

いずれも蛋たん白質分解酵素で、体内で産生される炎症物質（起炎症ポリペプチド）を分解する作用を示す。

血液凝固異常（出血傾向）の症状がある人では、出血傾向を悪化させるおそれがある方は、注意が必要です。

血管に傷がついて出血する。

血小板がその部位に集まる。

不溶性のフィブリン（線維素）

出血が止める。

血液が流れなくなる。

線溶系

抗プラスミン作用

出血が止まる

出血する



血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓性静脈炎等）、血栓を起こすおそれのある人では、生じた血栓が分解されにくくなることが考えられる。